

洗足学園音楽大学  
レパートリーオーケストラコンサート  
(後期)



2021年 11月18日(木) 18:00開演  
(17:30開場)

洗足学園 前田ホール

主催:洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

 Program —プログラム—

Giuseppe Verdi : Opera "I Vespri Siciliani" Ouverture

---

G.ヴェルディ：歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲

Manuel de Falla : El Sombrero de tres picos, Suite 2

---

M.ファリャ：バレエ音楽「三角帽子」より 第2組曲

—休憩—

Pyotr Il'yich Tchaikovsky : Symphony No. 6 in B Minor, Op. 74, "Pathétique"

---

P.I.チャイコフスキー：交響曲第6番 ロ短調「悲愴」Op. 74

- I. Adagio - Allegro non troppo
- II. Allegro con gracia
- III. Allegro molto vivace
- IV. Finale: Adagio lamentoso



## Program Notes 一曲について

### 歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲 (G.ヴェルディ作曲)

---

Opera "I Vespri Siciliani" Ouverture (Giuseppe Verdi)

歌劇「シチリア島の夕べの祈り」はG.ヴェルディによって作曲された全5幕のオペラである。

このオペラは1822年、当時フランスの支配下にあり政治や重税などに怒りを感じていたシチリア人が起こしたフランス人虐殺事件(シチリアの晩祷、晩鐘)が題材となっている。

「晩祷」とはキリスト教における夕方への祈り、「晩鐘」とは夕方に鳴らされる教会の鐘の音である。

この曲は弦楽器と打楽器による、まるでこの後の反乱を予感させるような異様な緊張感のある序奏で始まる。続いて木管楽器から始まる壮大でのびやかな旋律が現れる。安心したのも束の間、打楽器による激しいクレッシェンドにより突如戦いのテーマが現れる。シチリア人が反乱の機会を狙っているかのような激しい旋律と壮大な旋律が繰り返されていくが、鐘のような金管楽器による上行する旋律によりコーダに入り、序曲らしく堂々と曲が締めくくられる。

フルート専攻 2年 池田 徳羽子

### バレエ音楽「三角帽子」より 第2組曲 (M.ファリャ作曲)

---

El Sombrero de tres picos, Suite 2 (Manuel de Falla)

マヌエル・デ・ファリャ (1876-1946) はスペインのカディスで生まれ、1890年代からピアノと作曲を学んだ。

この曲はスペイン南部のアンダルシアのコメディバレエであり、1919年に初演された。

あらすじは、粉屋の女房に惚れた悪代官が横恋慕を試みるが、罨にはめられ痛い目を見てしまうという物語である。本日は、第二幕より「隣人たちの踊り」「粉屋の踊り」「終幕の踊り」を演奏する。

#### 《隣人たちの踊り》

3拍子の軽やかなメロディが第1ヴァイオリンから木管楽器へ次々と移ってゆく。祭りの夜に踊るセギディーリャを彷彿とさせ、静かな曲調の中に風情がある。

#### 《粉屋の踊り》

フラメンコの舞踏曲のファルーカを披露するホルンソロとイングリッシュホルンソロは聴きごたえがある。その二つの楽器から始まるこの曲は、フラメンコギターの曲調を使用し、舞踏的で重厚感のある曲となっている。

#### 《終幕の踊り》

冒頭は捕まっていた粉屋を逃がした警官が走ってくる場面。その後、悪代官を懲らしめることができた村人たちが喜びホタという華やかな舞曲を踊る。

全体を通してスペインらしい華麗なる演奏に注目していただきたい。

ホルン専攻 2年 中野渡 真咲

## 交響曲第6番 短調「悲愴」Op. 74 (P.I.チャイコフスキー作曲)

---

Symphony No. 6 in B Minor, Op. 74, "Pathétique" (Pyotr Il'yich Tchaikovsky)

Привет!!チャイコフスキーです!今回レパートリーオーケストラが演奏する私の人生最後の曲 交響曲第6番 悲愴について少し想いを綴ろうと思います。

1893年、私の指揮によりサンクトペテルブルクにて初演されました。しかしその9日後、私は急死してしまったのです。

私はこの曲を心の中で作曲しながらひどく涙しました。それだけこの曲を愛し人生の最高傑作であると確信していました。故に自分の気持ちを書き込みすぎてしまい指示記号が多いとよく言われます。

さてここで悲愴という副題についてです。スコアの表紙にはフランス語で悲愴を意味するpathétiqueと書いてありますが私の直筆のスコアにはロシア語でпатетическая (パテティチェスカヤ)とも表記しました、日本語に直訳すると「情熱的、感情のこもった」という悲愴という言葉とはかけ離れた言葉が書いてあります。しかし悲愴と言う副題も私自身がつけた副題です。

(ここでチャイコフスキーの中の人の意見を述べたいと思います。正直どうして”悲愴”という副題を付けたのかがわかりませんが、патетическаяとpathétiqueという2つの言葉が複雑に考えさせているのだと思います。しかし交響曲第6番が、情熱、悲哀、あるいは諦念といった様々な感情が入れ替わり立ち替わり、また重なり合って表れる曲であるのは事実です。そういった意味でもこの曲は彼の人生なのだなと思いました。)

ここまで外面的なことばかり触れてきましたが、正直各楽章への想いを300字で収めることなんて私が現代に現れるくらい不可能です。なんせ私が書いてきた曲の中で1番愛している曲ですから…

レパートリーオーケストラによる私の交響曲第6番 悲愴を通して私の人生を耳で、心で感じてください。

チューバ専攻2年 P.I.カイトフスキー (鈴木 快門)



©K.Miura

## 現田 茂夫 (指揮)

東京生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。96年より13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストラとも数多く共演し高評を得ている。また、世界的チェリスト故ロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高評を得ている。オペラ指揮者としても経験豊かで、東京二期会、関西二期会での指揮も数多くの公演を行なっている。02年からは錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め2年ごとに全国公演。11年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で“椿姫”を公演。14年には市川右近(現三代目市川右團次)新演出“夕鶴”の全国公演も行い高評を得、16年に再演を行った。また、ペドロロッチ国際指揮者コンクール(イタリア)の審査員や、NHK-FMラジオのパーソナリティを3年間務めるなどバラエティに富んだ活動を行なっている。

## 洗足学園レパートリーオーケストラ

本学には、4年生を中心としたマスターオーケストラ、1年生管弦打楽器履修生によるベーシックオーケストラ、そして2～3年生を中心としたレパートリーオーケストラ(弦楽器は本学所属演奏補助要員が担当)があり、様々な管弦楽作品の研究・演奏を行っている。これまでに秋山和慶特別教授、ウラディミール・アシュケナーズ名誉客員教授、クルト・マズア名誉客員教授らの世界的な重鎮に加え、小林研一郎、現田茂夫、山田和樹、井上道義など多くのベテラン・若手を織り交ぜた著名指揮者の客演を経て、その成果を発表している。





# Member

—メンバー—

Flute	梅崎 真綾	園田 凧琉	土持 志織	筒井 さくら	町田 花音	池田 徳羽子
	菊地 晃空	山上 智寛				
Oboe	宇治 愛	堀 友香	奥野 彩			
Clarinet	成瀬 未涼	二階堂 希美	笠 歌純	浦川 乃阿	トランゲン ゴックアン	矢ヶ崎 貴史
Bassoon	加藤 彩音	鹿山 唯	及川 夏海	渡邊 陽南		
Horn	浅田 万結	半崎 愛理	石野 奈々	梶田 茉朋	金井 亮介	種子田 佳歩
	直田 真潮	中野渡 真咲	山本 海音			
Trumpet	磯野 沙弥香	高木 美雨	檜山 沙南	細谷 侑生	溝口 大輔	大津 泰
	五月女 啓太	鈴木 ころこ	トルグット ハヴィン	藤原 くるみ		
Trombone	林 剛潤	宇賀那 晴臣	小野 航	中津 愛梨	樋口 美雨	望月 愛永
Tuba	齊藤 徹也	澤田 翔也	鈴木 快門			
Percussion	江原 和紀	近藤 寛斗	櫻井 秀悠	佐藤 綾香	中田 実紅	横木 秀真
	川崎 友仁	小山 梓	佐山 果凜			
Piano	山口 琴世 <sup>#</sup>					
Celesta	神山 果子 <sup>#</sup>					
Harp	三谷 真珠子 <sup>*</sup>					
Concertmistress	林 桃子 <sup>*</sup>					
Violin I	大塚 樹里 <sup>*</sup>	山口 亜純 <sup>*</sup>	香田 早智 <sup>*</sup>	舟久保 優貴 <sup>*</sup>	橘 純子 <sup>*</sup>	恒遠 磨帆 <sup>*</sup>
	志村 瑠南 <sup>*</sup>	前田 明日香 <sup>*</sup>	古木 沙弥 <sup>*</sup>	末廣 彩風 <sup>*</sup>	松谷 萌江 <sup>*</sup>	
Violin II	三島 彩 <sup>*</sup>	大谷 桜子 <sup>*</sup>	雨川 笑子 <sup>*</sup>	森田 絢子 <sup>*</sup>	広川 優香 <sup>*</sup>	池田 実結 <sup>*</sup>
	木村 光輝 <sup>*</sup>	恒吉 泰侑 <sup>*</sup>	木戸 亜希子 <sup>*</sup>	宮永 理央 <sup>*</sup>		
Viola	加藤 星南 <sup>*</sup>	堀口 健人 <sup>*</sup>	澤田 香萌 <sup>*</sup>	澤崎 杖也 <sup>*</sup>	鈴木 美智子 <sup>*</sup>	後藤 悠太 <sup>*</sup>
	岩松 優 <sup>*</sup>	内田 和紀 <sup>*</sup>				
Violoncello	鈴木 岳 <sup>*</sup>	伊藤 葵 <sup>*</sup>	奥平 華子 <sup>*</sup>	安藤 葉月 <sup>*</sup>	廣田 遙 <sup>*</sup>	加賀谷 ひなた <sup>*</sup>
Contrabass	本橋 和樹 <sup>*</sup>	遠藤 可奈子 <sup>*</sup>	吉田 智海 <sup>*</sup>	高野 響花 <sup>*</sup>		

<sup>#</sup>…学生賛助      <sup>\*</sup>…演奏補助要員

企画運営責任者	菅原 潤 (本学教授)					
リハーサルピアニスト	平峯 章生	皆川 純一				
指導教員	上野 正博	松村 秀明	鈴木 弘一	中 一乃	長原 幸太	沼田 園子
	安藤 裕子	古川原 裕仁	荒 庸子	藤村 俊介	矢内 陽子	菅原 潤
	森 圭吾	佐藤 亮一	田淵 哲也	辻 功	山口 卓郎	吉村 結実
	鎌田 浩志	小林 利彰	近藤 千花子	中館 壮志	松本 健司	石井 淳
	石川 晃	鈴木 一志	水谷 上総	吉田 將	勝俣 泰	小林 祐治
	久永 重明	森 雅彦	海野 匡代	神代 修	中山 隆崇	古田 賢司
	古田 俊博	池上 亘	門脇 賀智志	倉田 寛	菅 貴登	府川 雪野
	次田 心平	渡邊 功	井手上 達	幸西 秀彦	山田 徹	小林 裕子
	西川 麻里子					
	助手	中村 日向子				